



ひろーるぼん News Letter

2020.06

187

認定 NPO 法人

ひろーるぼん 認定 NPO 法人
〒731-0102 広島市安佐南区川内 6-28-15

子ども発達支援センター・就労継続支援 B 型事業所ひろーるぼん
〒731-0102 広島市安佐南区川内 6-28-15
Phone: 082-831-6888 / info@hullpong.jp

2020.03.30.Mon.

ひよこ組の子ども達が巣立ちました

こどもの表現と大人のかかわり方



令和2年3月30日、未就学児が在籍しているひよこ組のすだちの会が行われました。保護者と在園児が見守る中、12名の年長児が笑顔で卒園しました。今回は、ひよこ組の活動についてお伝えします。

この12名の卒園児の中には3年前の「はじまりの会」という入園式から通い始めた子どもたちもいます。3年前のはじまりの会では座っていることが難しい子、名前を呼ばれても返事ができなかった子もいました。しかし、すだちの会では自分の椅子にしっかりと座って、名前を呼ばれると「はい」と返事をし、一人一人、理事長から卒園証書を受け取る姿がありました。ひよこ組での生活の中で子どもたちは多くの力をつけて、新たな大きな世界へ巣立ちました。

こども発達支援センターのひよこ組は基本的な生活習慣や集団生活を身につけるために保育園や幼稚園のように毎日通所するクラスです。年々少(2歳児)から年長(5歳児)の子どもたちが、9時30分に登園して、外遊び、クラスでのつどい、リズム遊び、グループ活動、給食、お昼寝、おやつ、そして15時に降園します。クラスは年齢別に3クラスあり、自分の荷物を置いて、給食やおやつを食べるなど基本的な生活はクラス毎に行います。年齢とは別に成長の段階に合わせてグループを分けて、育ちを応援する時間があります。以前は療育と言っていたのですが、今は発達支援と言いうようになりました。『発達支援』と聞くと「どういふことをしているのかな?」「難しいことか?」と思われがちです。『遊び』を通して行なっています。例えば、順番を待つ、友だちと関わることで集団を意

識する、自分で衣服の着脱をする、手洗い、トイレなどを自分から行うなどを遊びや日常生活の中から身につけていきます。また、給食においても毎日管理栄養士の先生が季節の食材を使って、子どもたちが食に興味を持てるように考え作っています。苦手な食材があっても、一口頑張ってみれば周りの友だちや先生たちが褒めてくれる。それがとても嬉しくていつの間にか給食を完食することも多いです。給食を通して集団の力で成長します。こどもは「こころ」の中身を言葉で表現する代わりに、色々な形で伝えてくれます。その「形」が遊びの一面面であったり、言語であったりします。大人から見ると一見不思議に思える表現もあります。しかし、私たちは子どもたちのその「形」に「何を表現しているのだろうか?何を伝えようとしているのだろうか?」と

思いを巡らせます。ただ、一緒に時間を過ごすだけではなく、こどもたちの一つ一つの行動を見逃さず、意味を考え、行動や言葉で返していきます。そうすると、こどもたちは私たちにたくさん思いを伝えてくれます。よく「うちの子は野菜を食べないから」「うちの子はしゃべらないから」「うちの子は何も遊べないから」と言う言葉に出会えることがあります。その度に「野菜食べていますよ」「会話はまだまだできないけど言葉が発していますよ」「楽しんで先生や友だちと遊んでいますよ」「できないこともあるけど、

スピード感のある成長をする子もいれば、スモールステップの子もいて、それぞれです。あせらず、あきらめず、こどもたちの成長をゆっくり見守ることがとても大切だと思っています。ひよこ組と一緒に関係を築いてきたこどもたちの今までの成長とこれからの成長が私たちの誇りです。こどもたちがひよこ組を巣立ち、小学校という大きな集団へ入っていく、自信を持って、自分らしく生き生きと輝き続け、豊かな人生を歩んでいきます。それが、私たちの願いでもあります。



www.hullpong.jp

た。そうした行動やプロセスを通して、近年あまり感じなかったような楽しさやほんわかとした幸せを感じるのも事実です。

NHKのニュースで、例年に比べ8~9割出人出が減少したと報じられた5月の連休。本当に静かな時間でした。日常のせわしさをなく、刺激もほとんどない毎日。時間の流れがとてもゆっくりな毎日。しかしその分、身近な発見が多い時間でもあったように思います。そしてなによりも、家族と過ごす、ただそれだけのことに幸せを感じることもできる日々だったように思います。こどものいらっしゃる家庭は大変だったというお話も聞きました。多くの人との出会いの中で学び、成長をしていくことが必要なこどもたちにとっては確かに辛い日々だと思います。しかし、この社会状況を耐えながら、家族とともに過ごした時間は、こどもばかりではなく大人の私たちにとても必ずや将来に生かされる時間だと私は信じています。私が大好きな志村けんさんが亡くなったこと、悲しさや苦しさもたくさんありました。しかし、このゆっくりとした時間の中では、その辛い記憶が今日もしっかりと心に留まっていることに気づきます。今日、胸を痛めたことが次々に塗り重ねられるように過去に追いやられてしまっていたこれまでの日々。確かにそれとは違う毎日です。それは、流れるような毎日の中で見失ったり気づかなくなったことを思い起こさせてくれている日々のように感じます。

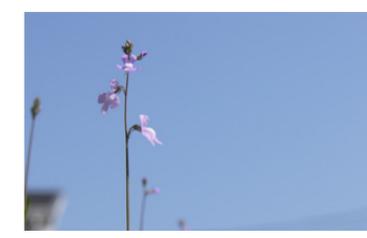
コロナウイルスが人と人とのつながりを絶とうとするなかで、当初のソーシャルディスタンスという言葉に代わってフィジカルディスタンス(物理的に距離を取り、社会的につながる)が言われるようになりました。さみしくなってしまう社会をみつめる中で、私たちはやはり人とのつながりを求め、そこよるこびを感じ、成長していく生き物であることを強く再認識しました。表現はつながりを生み、つながりはやりとりを生み、それらが様々な社会活動を生み出し発展してきた歴史があります。しかしその発展は、人同士のつながりから生まれたものだからこそ、人や社会の幸せを願うものでなければならぬと感じます。豊かきの原点と帰着点を私たちは忘れてはならないように思うのです。

つい先日まで、利便性に満ちた世の中に身を委ね、「持続可能な開発目標」と言いつつも、気がつけば「開発」「発展」ばかりに目が奪われてしまっていた世の中ではなかったでしょうか。しかし、今回私たちは、身の丈を超えた過剰な発展、サービス、消費があることに気づかされたように思います。さらにそれらの中には、人としての豊かさにつながらない欲望も含まれていたように思います。過剰でなくても、いや、過剰でない方が人間としての豊かさを実感できることにも気づいたのではないのでしょうか。

この先私たちは、元の社会に戻るのではなく、未来に向けて何を無くすべきかを真剣に考え、どう成長し新生するかを描いていくことが大切ではないかと思っています。謙虚な気持ちで「持続可能な共生目標」を創っていかなくてはならないのだと考えるのです。

私たちに一体なかが大切なのか。私たちはどう生きるべきか。そんな根源的なことを私たちは改めて考えさせられているような気がします。そしてもうひとつ。

Message...



Beyondの先に向かって

2月26日、私たちは岐路に立たされてきました。昨年末から時間をかけてみんなで稽古に取り組んできた「ウタとナンタのさかのぼり」という演劇公演をどうするか。チケットは完売、舞台装置も完成、出演者もスタッフもみんなやる気満々という中で、忍び寄るコロナウイルスの足音とともに自粛が求められ始めた時だったからです。「人の命に代わるものはない。公演をすることで、もし万が一、大切な人を感染させたら、命を失うことがあったら、取り返しのつかないことになる。『表現したい』という思いは今後は後回しにしたほうがいいのではないか。」逡巡する中での2月公演の中止決定は本当に辛い決断となりました。それから2ヶ月半、5月の連休明けの今、コロナウイルスは社会を揺るがす事態をもたらしたことを実感します。芸術文化公演は言うまでもなく、教育の場は閉鎖され、経済活動も自粛の波にのまれ、私たちひとりひとりの生き方も様変わりしました。命を守り救うための行動が求められるようになり、以前に増して他者や社会を思いながら生きていく大切さを実感する日々が続いています。ひろーるぼんにおいてもそれは

同じで、手作りも含めてマスクを届けてくださったり、私たちに何かできることはありませんかとおっしゃってくださる保護者の方をはじめ、多くの方々に支えられ励まされながら毎日を送っていることにあらためて気づかされます。さらに非常事態宣言発出以降は、通常とは違いかたちの育ちや社会参加の支援をみなさんと一緒になって、知恵と工夫を出し合いながら乗り越えようとする状態が続いています。にぎやかなこどもたちの声が響かないひろーるは本当にさみしいです。しかし、通信画面や電話の先やちょっとした訪問の際に見る表情に、だれもがそれぞれの場所で希望の光をみつめながら日々を送っていることを感じます。きれいな事ばかりでは通り過ぎることはできないことはよくわかっています。しかし、心ない人たちの買い占めや転売によって振り回されたマスク騒動も、今では、無いなら自作すること、自作できない人にはそれを分け合うことが当たり前になりつつあります。医療職をはじめとするエッセンシャルワーカーや飲食業界にエールを送るなど私たちひとりひとりのレベルでできることを考え、実行に移すようにもなってきました。

川口隆司

新しい自分を発見

大学生にとつてのボランティア活動

うるとらのほし編集部



「こんにちは今日も来たよ」
週末や長期休みになるとひゅーるぼんに学
生のボランティアが遊びにきてくれます。

現在、教育現場においては、豊かな人間
性や社会性を養うとして、ボランティア
活動への参加が積極的に支援されていま
す。ひゅーるぼんでは年間を通して学生の
ボランティア活動を応援し、昨年度はのべ
402名の受け入れをしました。活動を通
してどんなことを感じているのか、活動を
開始して3年目、大学で幼児教育を学ぶ渡
邊奈緒さん(以下、渡邊)、川崎里奈さん(以
下、川崎)にインタビューをしました。彼
女たちの感じている、家庭、学校とは違う
成長の場としてのボランティアをご紹介します。

空間づくりがあるなと思います。
川崎：私たちとスタッフとの距離が近く、
話しやすく参加しやすいです。やる
ことが決められていなくて、自分た
ちもやりたいことが実現できるの
もいいところだと思います。

「やりたいことが実現できる」とい
えば、2人は絵本や手作りのおも
ちゃをプレゼントしてくれたり、す
だちの会(卒園式)に子どもたち一
人一人に記念品を持って来てくれ
たりしてくれましたね。

渡邊：子どもたちに喜んでもらいたい気持
ちが強いんです。すだちの会の時は、
コロナウィルスの影響で、ボラン
ティアに行けなかったのが、何かで
きたらいいなと思いプレゼントを
作りました。

川崎：ボランティアのイメージは始める前
と後では変わりましたか？
渡邊：はじめる前は難しいイメージがあっ
たけれど気軽にやってみようかな
と思えるようになりました。

川崎：これから挑戦してみたいことはなん
ですか？
渡邊：もっと発達に支援が必要なものた
ちについて知りたいです。

川崎：大学の卒業研究で、発達に支援が必
要なもの達について取り組む予
定です。これまでは発達支援につ
いて知らないことも多かったですが、
知ること考え方が180度変わ
りました。例えば、騒いでいるこ
もがいたら、理由があるんだと、そ
の子の気持ちを考えられるよう
になりました。

渡邊：自分から動くのはひゅーるぼんだけ
です。本来私は人と関わるのは得
意ではないですが、自分が楽しいか
ら、子どもと関わるという好きなこ
とをしているからそんな風になる
のかな?と思います。

川崎：はじめてひゅーるぼんで活動をして
いる渡邊さんを見た時、子どもたち
や先生ととても楽しそうに話をし
ていて、びっくりしました。大学で
の渡邊さんはどちらかというと大
人しいタイプです。

渡邊：自分が成長した、変わったと思うこ
とはありますか？
川崎：子どもと会話を続けることが苦手
だったけど、活動で子どもの個性や
好きなことを知り、沢山話をするこ
とが出来ようになりました。みん
な性格も個性も違うので、それを
知ること成長のために自分ができ
ることがあると思います。

川崎：子どもの成長やチャレンジを応援
し、支えてあげられる先生になりた
いです!「あの先生好きだったな」
と大人になっても覚えていて貰え
るような先生になりたいです。

渡邊：1人では来にくいと思うので、友達
誘って一度来てもらったら楽しさ
がわかると思います!

川崎：ひゅーるぼんは楽しい場所、みん
なにも感謝されるし自分の経験に

川崎：先ボランティアをしていた渡邊さ
んに誘われたからです。渡邊さんの
話から楽しそうだなと思いました。
また、大学の先生に将来、保育士と
して働く時の勉強になると言われ
たのもきっかけになりました。

渡邊：保育士になりたくて、高校3年生の
夏に友達に誘われて一緒に行くよう
になりました。

川崎：先にボランティアをしていた渡邊さ
んに誘われたからです。渡邊さんの
話から楽しそうだなと思いました。
また、大学の先生に将来、保育士と
して働く時の勉強になると言われ
たのもきっかけになりました。

渡邊：保育士になりたくて、高校3年生の
夏に友達に誘われて一緒に行くよう
になりました。

川崎：先にボランティアをしていた渡邊さ
んに誘われたからです。渡邊さんの
話から楽しそうだなと思いました。
また、大学の先生に将来、保育士と
して働く時の勉強になると言われ
たのもきっかけになりました。

渡邊：保育士になりたくて、高校3年生の
夏に友達に誘われて一緒に行くよう
になりました。



なるので、来てもらえたらいいなと
思います。

彼女たちの話を聞いてみると、「楽し
い!」という思いを強く感じました。「楽
しい!」という気持ちは、決して自己満足
で終わらず、プレゼントのエピソードから
もわかるように自発的な行動を起こし、こ
どもたちの笑顔と幸せを生み出しました。
幸せを創ることは、特別なことをすること
ではなく、相手のことを大切に思い行動す
ることだと気付かされます。スタッフに
とつて、ボランティアの存在が日常の活動
をさらに豊かにし、新しい気づきを与えて
くれることを感じています。

私も学生時代ボランティア活動を経験
し、楽しさだけでなく新しい自分を発見し、
世界が広がるおもしろさを感じました。視
野が広がることで、自分のあり方と社会を
結びつけて考え自分の個性を生かしなが
ら社会に何かできないかという思いから社会
福祉を学びました。

これらのことから自分の力を役に立てた
い、発揮したいと思い始めたボランティア
活動は、人との出会いの中で、様々な思い
に触れ気持ちのやり取りを重ね、繋がるこ
とで成長する場となりました。ひゅーる
ぼんは、子どもも学生も大人も関係なく
もに成長する仲間です。ひゅーるぼんに集
う人それぞれが自分らしく輝き、人と繋
がりながら成長していけるような場を、こ
れからもみんなで創っていききたいと思っ
ています。

川崎：子どもの成長やチャレンジを応援
し、支えてあげられる先生になりた
いです!「あの先生好きだったな」
と大人になっても覚えていて貰え
るような先生になりたいです。

渡邊：1人では来にくいと思うので、友達
誘って一度来てもらったら楽しさ
がわかると思います!

川崎：ひゅーるぼんは楽しい場所、みん
なにも感謝されるし自分の経験に



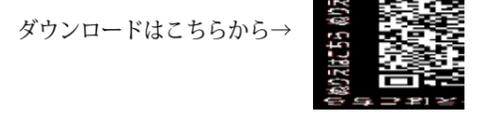
www.hullpong.jp

(一般寄付)
谷 博利, 湯地 由美, 宮本 昌也,
春日 一志, ひよこぐみ卒園児保護者一
同, 沼田組仏教婦人会連盟, 匿名3名

(物品寄付)
阿曾沼 武, 立山 智浩, 薬師神 文慎,
宮本 昌也, 北台 昇平, 門田 修,
#福祉現場にもマスクをプロジェクト

本当にありがとうございました。
(敬称略・順不同)

●ぬり絵コーナー
ほっこりおうち時間♪ ぼんぼんのアー
ティストの絵をダウンロードして、ぬり
絵を楽しんでみてください。



ダウンロードはこちらから→

この子らと世に光を... 輝くこと、伝えること、創ること
発行者: 認定NPO法人ひゅーるぼん 広報委員会
発行日: 2020/06/08 (年2回発行)
ひゅーるぼん会報 "うるとらのほし"

文字が小さくご不便をおかけします。この会報は web
www.hullpong.jp では拡大してご覧いただけます。

●手作りマスク
ぼんぼんでは手づくりマスクの販売を
しています。柄が一つ一つ違うので、
お気に入りを選んでくださいね! 大人
用(M・L)、子ども用(S)があります。
また、尾道帆布×ぼんぼんコラボマ
スクも販売中☆



●Hull Fanへのご協力・ご寄付
ありがとうございます2月~5月
(賛助会員)
宮庄 浩司, 大谷 梨奈, 小池 正治, 井垣
俊英, 土井岡 慶, 蜂谷 哲治, 湯地 由美,
上村 一相, 迫谷 克利, 胡明 憲二, 松島
夏子, 匿名3名, 職員2名

●子育てサロン再開します!
6月から毎月第2・第4火曜日 10:30 ~
感染予防対策をした上で実施する予定
です。開催日時等詳しくはホームペ
ージをご確認ください。また、ひゅー
るぼんまでお気軽にお問い合わせくだ
さい(☎082-831-6888)

●ボランティアの受け入れについて
新型コロナウイルス感染拡大防止の観
点から一時休止していましたが、6月
からボランティアの受け入れを少しず
つはじめていく予定です。通所する人、
ボランティア、スタッフ全ての人の感
染予防を心がけながら一緒に活動を
しましょう。ボランティア希望の方は、
事前にひゅーるぼんまでご連絡くだ
さい。※実習や授業での活動参加に
関してはご相談ください。



賛助会員 Hull Fan 年間4,000円
お申し込みは www.hullpong.jp から

私たちの活動は
あなたのおこころざしで
もっとあったかく
やさしくみまいます
ぜひ私たちを支援してください

このご寄付は税制上の優遇を受けることができます